

## 第1期音威子府村まち・ひと・しごと創生総合戦略における効果検証 および第2期総合戦略に対する意見について

2020.10

音威子府村まち・ひと・しごと創生本部  
(音威子府村役場総務課地域振興室)

### 1 はじめに

本村では、平成26年に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に沿い、平成27年12月に第1期の「音威子府村まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、総合戦略）」を策定、5年間にわたり村立高校を軸とした取り組みを展開してきました。これまでの取り組みについて、有識者会議においてPDCAサイクルによる評価・検証および全体総括を行いましたので公表いたします。

あわせて、本年度より開始となった第2期総合戦略について、同じく有識者会議により、全体に対する意見等を取りまとめましたので、同じく公表します。

### 2 第1期総合戦略における各基本目標の評価及び改善へのご意見等

#### ◇基本目標1：「村の振興の要となる高校の機能強化」

##### ◆数値指標：「高校入学者数」

…現状値（2014）40人／目標値（2019）40人 →【最終値40人】

##### ◆具体的施策：①高校の仕組みの強化

…KPI「中学校訪問実施校数」→【指標達成度100%】

##### ◆評価（Check）

- ・高校および教育委員会が中心となり、中学校訪問を継続的に実施してきたことにより、目標値を達成したものと考えている。
- ・高校入学者数の数値指標達成は、KPI項目の着実な達成、関連するさまざまな取り組みの積み重ねにより、ほぼ定員を満たす入学者数の確保へとつながったものであると考えている。
- ・国内の児童数が減少していく中で、年111校の中学校訪問実施は評価すべき活動である。次期以降も継続すべき。
- ・入学者数の確保は、中学校訪問を継続的に丁寧に行ってきたことをはじめ、「一日体験入学」の実施も大きな要因の一つであると思う。

#### ◆改善 (Action)

- ・今後も、高校入学者数の安定確保のため継続して取り組んでいくべき。
- ・実施主要事業については、未実施のものもあるが、教育環境の充実や高校の魅力化に向けた検討を重ねていき、基本目標の達成を目指していく。
- ・中学校訪問のほか、木の手づくり展などの取り組みについて、高校（教員）への負担が大きい部分もある。今後の進め方の一つとして、教育委員会などが主導で事業展開するなど、検討も必要ではないか。
- ・木の手づくり展を通じて、生徒が創り出す作品に対して高い評価を受けていることが、高校の知名度向上につながっている。そのことから、一度実施した大都市圏（東京）での作品展は、毎年ではなくとも数年に一度でもよいので開催に向け検討してもよいのではないか。
- ・生徒の作品が常設してある高校ロビーのように場所が、村外の方が気軽に立ち寄れる場所にあれば高校 PR につながるのでは。

#### ◇基本目標 2 : 「卒業生のための雇用の場の創出」

---

##### ◆数値指標 : 「卒業生の新規就業者数」

…現状値 (2014) 0 人 / 目標値 (2019) 6 人 → 【最終値 10 人】

##### ◆具体的施策 :

###### ①新エネルギー産業等立ち上げによる雇用の創出

…KPI 「バイオガスプラント事業関連就業者数」 → 【指標達成度 0%】

KPI 「高齢者複合型施設関連の就業者数」 → 【指標達成度 0%】

###### ②新規就農者・農業後継者の育成強化

…KPI 「新規就農者数」 → 【指標達成度 133%】

KPI 「農業後継者」 → 【指標達成度 100%】

##### ◆評価 (Check)

- ・主要となる事業（バイオガス）の未実施により、それに伴い KPI 未達成となっている。一方で、高齢者複合型施設での卒業生の雇用はなかったものの、村外からの就業に伴う転入者は 4 名であり、地域の雇用創出としては一定程度評価できるものと考えている。
- ・農業分野への卒業生の就業はなかったものの、各種農業振興施策の実施により、目標値達成に結び付いた。
- ・村に定着し安定した生活を送るために、雇用先の確保という問題は今後も重要視され

る点だと考える。同時に、事業主の高齢化や後継者問題についても、あわせて解決しなくてはならないテーマだと考える。

- ・卒業生の U ターンが増えつつある一方で、将来的に家庭をもって子育てしていただくの安定した収入を確保できなければ、地元への定住も難しいのでは。

#### ◆改善 (Action)

- ・地元企業への就業や事業継承等の取り組みを検討。
- ・現状、卒業生の能力を活かせる雇用の場が村には少ないものの、村で就職したい生徒は存在することからも、企業誘致 (家具、楽器工房、メーカー等) も一つではないか。
- ・地元理解のために、行政でのインターシップ受け入れも積極的に行っては。
- ・新しい雇用創出がすぐには難しければ、自然豊かな村で生活をしたい卒業生を「テレワーク」の活用により呼び込むなども、検討してみるはどうか。

### ◇基本目標 3 : 「高校を軸とした人の流れの促進」

---

#### ◆数値指標 : 「卒業生の移住者数」「展覧会の入場者数」

…現状値 (2014) 1 人 / 目標値 (2019) 5 人 → 【最終値 10 人】

現状値 (2014) 700 人 / 目標値 (2019) 年 1,500 人 → 【最終値年 1,500 人】

#### ◆具体的施策 :

##### ①卒業生の U ターン・定住促進

…KPI 「高齢者複合型施設就業に関わる U ターン者数」 → 【指標達成度 0%】

KPI 「短期移住体験者数」 → 【指標達成度 125%】

##### ②高校を活用した交流の拡大

…KPI 「展覧会の開催数」 → 【指標達成度 100%】

KPI 「学校紹介 DVD の作成」 → 【指標達成度 100%】

KPI 「高校応援団の組織化」 → 【指標達成度 0%】

##### ③学校間連携の強化

…KPI 「レクサンド校への生徒派遣数」 → 【指標達成度 100%】

KPI 「留学生の受け入れ数」 → 【指標達成度 66.7%】

KPI 「大学との連携事業数」 → 【指標達成度 150%】

#### ◆評価 (Check)

- ・高校を中心とした「木の手づくり展」の継続的な取り組みによる成果。
- ・レクサンド高校との交流 (相手方申し入れにより R1 より中止) や大学との連携は、継続的な連携取り組みにより成果としてあらわれてきている。

#### ◆改善 (Action)

- ・卒業生以外も含む村への就業者増に伴い、移住定住の数値にも成果が表れている。
- ・短期移住体験者は、リタイア組が多くかつ定住希望ではない（シーズンステイ）ことから、実態に合わせた仕組みの検討、卒業生や若者が移住体験しやすい枠組みの検討（シェアハウス等）が必要。
- ・木の手づくり展をはじめ、地域外での作品展示の機会を創出。
- ・高校応援団は未結成であるものの、卒業生や保護者等を含む、広く応援していただける組織や仕組みを検討。
- ・レクサンドとの連携を評価しつつ、今後の交流先等を検討。
- ・アーティストレジデンス事業は良い企画であると考え。卒業生だけではなく、連携している大学の学生参加等も、高校生への刺激になるのでは。
- ・美大等のゼミ誘致も積極的に進めてはどうか。
- ・木の手づくり展などの機会を活用し、卒業生やその保護者との交流の場をもちながら、かかわりを深くしていくことが必要では。
- ・アーティストレジデント事業と学校教育との連携をさらに図るべき。

#### ◇基本目標4：「高校生参加による個性的で魅力ある村づくり」

---

##### ◆数値指標：「高校生参加の村づくり事業数」

…現状値（2014）－／目標値（2019）2事業/5年間 →【最終値0事業】

##### ◆具体的施策：

###### ①高校生の村づくりへの参加促進

…KPI「高校生によりデザイン化された施設数」→【指標達成度0%】

##### ◆評価 (Check)

- ・公共施設空間を活用した作品展は実施したものの、「デザイン化」まではハードルが高く未実施となっている。
- ・新規の村づくり事業はなかったものの、これまで継続してきている村民運動会、文化祭等は評価すべき実績である。
- ・既存の村行事や運動会、文化祭など、地域住民とのふれあい機会は重要である。
- ・その他、エコミュージアムおさしまセンターのボランティアスタッフ等も、高校生参加の村づくりの場として重要である。
- ・次期以降も、さまざまな場面で高校生の創造力とアイデアを取り入れた村づくりを展開すべき。一方で、先生方が生徒の指導等に忙しい面もあるのか、地域とのかかわりの時間がなく残念に感じる。

#### ◆改善 (Action)

- ・基本目標指標や KPI の設定値をいま一度精査し、目標達成に向けた KPI の設定、具体的取り組みを精査する。
- ・高校生の村づくり参加方法を模索し、広く「デザイン」を通じた地域とのかかわりの機会創出を目指す。
- ・生徒のモチベーション向上のために、「作品販売事業」など、新しいアイデアでの展開を検討しては。

### 3 第1期全体に対する評価及び改善等

---

- ・各基本目標の数値指標および KPI は、一部未達成の取り組みはあったものの、おおむね当初計画通りに進めることができた。達成には、高校をはじめ、地域の皆さまや各事業者、関係機関との協力連携によるものであると考えている。
- ・第2期においても、引き続き同じ目標を設定し、第1期での評価及び改善点等を踏まえて、次期以降も PDCA サイクルによる評価・検証を行いながら取り組みを実施する。
- ・予測できない要因（新型コロナウイルス等）により、生徒たちのパフォーマンス発揮の場が少なくなり苦勞されているのでは。生徒の能力を発信する手助けをしてあげられるように。
- ・卒業生のための雇用の場の創出は、課題が残るように感じる。
- ・高校を軸とした人の流れの促進は、生徒の卒業後の進路にも関係してくることからも、取り組みを進めるべきであると考えている。アーティストレジデンスと学校教育との連携、美大等のゼミ誘致など、特に取り組みを進めては。
- ・30人2学級制は、60名の確保の困難さ、定員割れによるレベルの低下、機能強化に逆行しかねないことからすべきではないと考える。
- ・雇用の場創出は、高齢者複合施設のような場合は専門的な知識技能習得まで時間を要するなどのことから、継続的に取り組む必要があると考える。
- ・人の流れの促進については、卒業生とその保護者、Uターンしてきた卒業生のネットワーク等を最大限活用して、高校応援団の結成を期待する。

### 4 第2期総合戦略および人口ビジョンについて

---

令和2年度より開始となった第2期の総合戦略は、第1期での取り組みを踏まえて計画、実施するものです。第2期総合戦略は、基本的な方向性は第1期を引き継ぐものであり、そのことから人口ビジョンは第1期からのものを引き継ぐものとしています。なお、あくまでも総合戦略で掲げている基本目標等は、村のすべての問題や課題を解決するための全体目標ではなく、より人口減少に対して戦略的に取り組みを進めていくためのものです。

第2期総合戦略策定にあたり、行政でのPDCAサイクルによる評価・検証を実施し、第1期を基本とした具体的な施策とKPIの設定を行っています。今後は、これまでと同じく「有識者会議」を開催し、さまざまな分野の皆さまから多角的視点からのご意見をいただきながら、PDCAサイクルによる評価・検証により、事業実施を進めていきます。

#### ◇第2期総合戦略における有識者会議構成団体等

- ・住民代表～第1行政区、第2行政区
- ・産業経済～音威子府村商工会、音威子府村農業委員会、北星信用金庫音威子府支店
- ・教育～北海道おといねっふ美術工芸高等学校、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーション中川研究林、音威子府村教育委員会
- ・オブザーバー～北海道上川総合振興局地域創生部地域政策課
- ・事務局～音威子府村総務課地域振興室

#### ◇第2期総合戦略に対する有識者からのご意見

- ・高校生の能力を発揮する場を多く設けるように望む。
- ・今後より一層「入学者の確保」が厳しくなってくることから、これまで継続してきている中学校訪問事業、木の手づくり展事業等の「学校PR」は継続を期待する。
- ・高校では、学校を選択してもらえらる要素の一つとして、教育実践や教育成果であると考えていることから、専門高校において進路多様性のあるカリキュラムを整備し、村の振興の要となる学校の機能強化に取り組んでいる。
- ・高大連携では、東海大学との連携事業のほか、アーティストインレジデンス事業と学校教育との連携、美大等のゼミ誘致、美大ガイダンス、専門学校技術指導等の推進を望む。
- ・地元理解のための、村内インターシッの推進や雇用の場創出のための企業誘致等。
- ・音威子府村のブランドとして、美術工芸やクロスカントリースキーがあるが、どちらも高校の部活動として取り組みをしている。公立高校の部活動環境について厳しい面もあることから、継続への支援等を望む。
- ・これまで取り組みを継続している、作品発表の機会を引き続き設けていくように望む。
- ・高校魅力化に向けて、事業や調整役を担うコーディネーターなどの人材確保や、推進連携体制等の支援が必要。
- ・各施策の推進のためには、高校だけではなく、関連する各部署の担当者もそれぞれ理解を深め、総合戦略の目標達成に向けて取り組みを進めることが必要と感じる。
- ・総合戦略の「高等学校を軸とした人の流れの促進」「高校生参加による個性的で魅力ある村づくり」は、特に高校の理解と協力が必要であり、行政との綿密な連携のもと取り組みを進めることが必要と感じる。
- ・高校だけの負担の増加につながらないよう、教育委員会の役割が重要となる。

以上